

他教科（国語科以外）での読書活動を生かした授業実践

美術科

朝来市立朝来中学校
1年生

単元名

ポップづくり

教材名：気持ちを伝えるデザイン

《単元の目標》

- 自分が感じた美しさやよさを、形や色彩、材料がもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、伝える内容を全体のイメージなどで捉えることを理解している。 [知識・技能]
- 伝える目的や条件などを基に、相手に自分が感じた美しさやよさを伝えることから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構成を練っている。 [思考・判断・表現]
- 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく自分が感じた美しさやよさを伝える表現の学習活動に取り組もうとしている。 [主体的に学習に取り組む態度]

《学習の流れ》

- 1 『ポップ』とは何か理解する
- 2 小学生に薦めたい本を選び、本の魅力が伝わるよう情報を集める
- 3 集めた情報をもとに、ポップの構成、書体、イラストなどを下書きする
【一線部が読書活動】
- 4 より魅力的なポップになるよう、工夫し完成させる。

僕は「絵で読む
広島原爆」を紹介しようと思った。広島原爆の怖さがわかるように工夫し、絵を描きました。

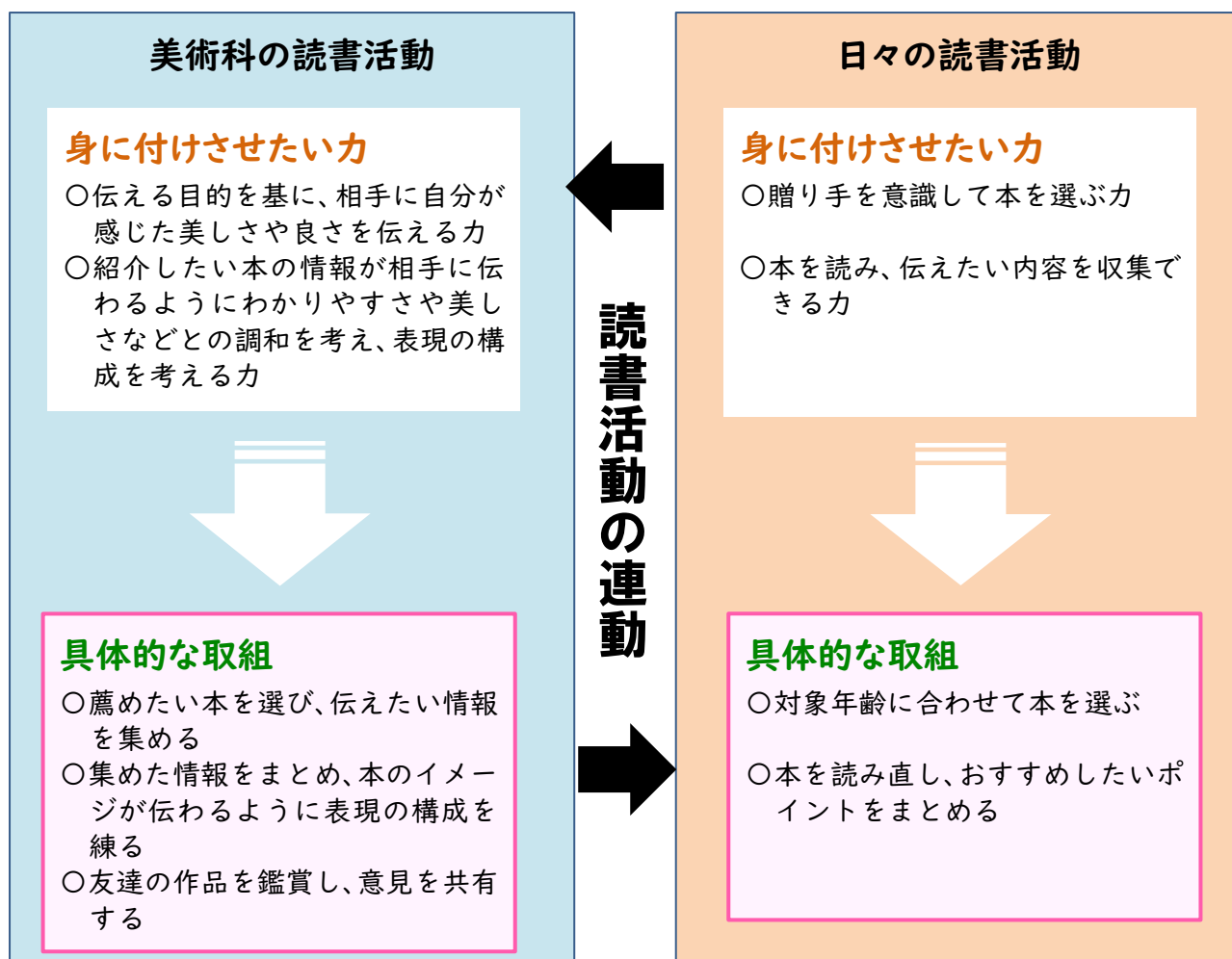


小学生が読みたくなるように、登場人物のイラストを描いたり、本に関連させて給食っぽく書いたりしました。

中学校区内の小学校との連携のポイント

紹介したい本のポップを作り、小学生に贈ろう。

- 二年連続の取組で、昨年度は校区内小学校に保管されている本の中からポップを作成し、贈った。今年度は中学生が過去に読んでいて、ぜひ今の小学生たちに読んでもらいたい本というテーマでポップを作成した。
- 本校三年生が小学生へ絵本の読み聞かせを行った際にプレゼントとして作成したポップを贈った。その後、小学生からお礼の手紙をもらっている。



子どもの変容と学びの深まり

読書に関するアンケート結果

(R5. 6月)

図書室での本の借用率は35%にとどまっており、「あさご森の図書館」で過去1年間に児童生徒が本を1冊以上借りている割合は約50%ある。新しい本との出会いを求める生徒が少なかった。

ポップづくり後のアンケート結果

「今後もポップづくりに参加したいと思いますか」という質問に対して、全体の70%の生徒が参加したいと回答した。また、「伝わるようにイラストや文を工夫したことが印象に残っています。」と振り返る生徒が多かった。

《子どもの感想》

- ・みんなにおすすめの本を気に入ってもらいたいという気持ちで作成しました。
- ・思っていた以上に人の目を惹くようにポップを作ることが難しいと感じました。
- ・小さな子でもわかるように、漢字を少なくしたり、漢字の上にふりがなをふったりと相手を意識して作りました。